様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">美術館検討委員会（第６回）</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">市民活力推進部文化国際課　電話０４２－７６９－８２０２（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">平成２０年１２月２５日（木）　１４時００分～１７時００分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">相模原市民ギャラリー　会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">１１人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">０人</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">５人（市民活力推進部長、文化国際課長、他３人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　□不可　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>１人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会議次第</td><td colspan="3">１　開　会
２　議　題
(1)相模原市の美術館の基本コンセプト等について。
３　その他
４　閉　会</td></tr>
</table>

審　議　経　過

主な内容は次のとおり。（○は委員の発言、●は事務局の発言）

１　開　会

相模原市市民活力推進部長あいさつ

２　議　題

（1）相模原市の美術館の基本コンセプト等について。

●　次回が美術館検討委員会の最終回であるため、提言内容について実質的に討議できるのは、今回で最後となる。次回の美術館検討委員会で、最終的に取りまとめた提言書の内容を各委員に確認いただき、その後に、提言書を市長へ提出いただく予定である。今回の提言書(案)の作成にあたり、委員長、副委員長を始め、多くの委員から、検討委員会以外の場でも、貴重なご意見をいただいた。この場を借りて感謝を申し上げたい。この美術館検討委員会の提言は、相模原市の美術館の基礎となる重要なものだと認識している。本日も活発なご意見をお願いしたい。

○　提言書(案)の文章については、市ともいろいろと協議し、市と分担して作成した。箇条書きと、文章形式のどちらが良いのかについては、読みやすさを考え、文章形式とした。

《前書き「はじめに」について》

●　ここで述べたかったのは、市の美術館が、活動対象を市内の利用者に限定するのではなく、市外からの利用者を含めた美術界というものに目を向ける必要があるということだ。また、美術館建設予定地の近隣には、３つの美術系大学があり、隣接して大型商業施設も建設予定であることから、橋本に美術館を設置するという必然性、地の利についても触れておく必要があると考えた。

○　ポイントは突いているが、２点、気になる点がある。１つは、第２段落の「対象は市民だけではない」という記述だ。表現の仕方であるかも知れないが、美術館活動は、やはり市民中心であるべきではないか。また、第３段落の「市民にとどまらず、広く美術界に目を向けらなければならない」という記述についても、市民軽視と取られかねない。アートと市民との共生を印象づけるべきではないか。

○　同感だ。地域の美術館は、市民を活動に巻き込んでいく必要がある。その活動の結果が、日本国内や海外に発展していくのではないか。市民の美術館であることが重要なのであって、市域内の市民のみが対象でないということを言いたいがために、市民を無視しているような誤解を与えてはいけない。

○　私も同感だ。従来の美術館はアートを展示して見せる場であったが、これからの美術館は、市民に対してアートがどれだけ有用であるかを強調していく必要があ

る。

○　地域に対するアートの有用性を強調したほうが良い。

○　橋本は、美術館用地として大変環境に恵まれているし、今までにない新しい感覚の美術館であることも理解できる。しかし、文章が少し「～することになる」とか、「～と思われます」といったような表現で、受身的に感じられる。もっと主体的に「何をするのか」、「どう思うのか」について書くべき。

○　基本理念の中では「普段着やエプロン姿で立ち寄れるような」美術館であると書かれているが、「はじめに」を読むと、市民が立ち寄りにくい印象だ。市民が行きやすい印象の美術館にすべき。

○　事務局に確認しておきたいが、この提言書は美術館検討委員会が市長に提出するものであるが、誰に向けたメッセージなのか。市長に向けた提言であるのと同時に市民にも理解してもらう必要があるのか。

●　提言書は、市長や市に対して美術館の提言をするものであるが、それと同時に、市民に公開し、市民に理解していただく必要がある。市民が読んで理解しやすい内容でなければならない。

○　市に対する提言であることは間違いないが、誰に対してアピールしたいのか、はっきりしておくべきだ。

○　市民が読むことを考えた上で、「美術館によってアートの有用性が、市民に還元される」ことが理解できる表現にするべきだ。美術館が地域に与える影響もそうだが、近隣の美大と美術館が関連して、どのような影響が生まれるのか、市民には理解しにくい。

○　「はじめに」の中で、美術館名が２つ、挙げられている。先行的なモデルとして考えたのであろうが、固有名詞を挙げてしまうと、これらに追いつき追い越そうとしているような印象である。

○　地域の美術館として、地域の性格はどのような地域なのか、その地域でどんなことを行うのかについて不明確だ。相模原市には都市化が進んでいる地域と自然が残る地域がある。地域の特色を生かすことについても、合わせて述べる必要があると思う。

○　地域について、橋本近隣に限定されているような印象を与える。相模原市の広い地域を対象とすべきだ。

○　近隣の３美大に対して、期待が述べられているが、どんな点に期待ができるのか、全てを述べることはできないが、一言くらいは記述しておいたほうが良い。美術館が活動するにあたって、美術大学がどのような位置づけであるのか述べておく必要がある。

○　市長や美術館の状況を知っている人に対しては理解しやすい文章だが、一般の市民には分かりにくいのではないか。一般市民に向けて、美術館に対する考え方を

書かなければならない。

○　「はじめに」の部分だけではなく、全体的に見て検討をしてはどうか。

○　「はじめに」の中で、基本理念まで述べられている気がする。導入なのだから、他の部分に回せるところは回したほうが良い。

○　「対象は市民だけではない」という表現は、「市外在住の市民も対象にする」という意味だと思うので、表現を改めれば、市民中心の美術館という考え方に反しないと思う。

●　皆さんのおっしゃるとおり、ここで意図した美術館の活動対象地域は、公民館区などの狭い地域でないということを表現しようとしたものだ。

○　誰のための美術館なのかについて、「はじめに」の中で全てを語ることは不可能。この部分で何を述べるかについては、全体を見ながら検討したい。

《「基本理念」について》

○　基本理念について、専門家でない人に読んでいただくために文章的に書いて見た。また、今この時代に美術館が何故必要であるのかについても触れておいた。美術館の必要性について詳細に記述すれば長大な論文になってしまうが、一端なりとも説明しておく必要はあると思う。

○　基本理念の「人と場と文化を育む」について、どういうプロセスでこういった表現が出てきたのかを、基本理念の文章の中で説明しておいたほうが良い。

○　美術館に対する基本的な考え方を「はじめに」で述べておけば良いのではないか。「基本理念」の部分については今までの検討内容が良く反映されている。

○　「育む」という言葉には、「考えさせる・教える」というより、「回りから刺激を与える・成長させる」という意味あいがあるように思う。

○　用語の統一について、「美術」という言葉を「美術・アート」としているが、最近では、「美術」は美大の中でもマイナーになってきている。デザイン的なものも含めると、「美術・アート」とすべきか、「美術・芸術」とすべきか、考える必要がある。「美術文化」という言葉にしても「芸術文化」とすべきかも知れない。また、「新しい美術表現」という部分についても、単に「新しい表現」としても良いと思う。どこまで文言にこだわる必要があるのかも含め、検討の余地はある。

○　「アート」とすべきか、「美術」とすべきかについては、今までの検討の中でも議論されたことであるが、整理する必要はある。

○　「産官学の連携」という言葉について、「企業や学校に文化活動に目を向けてもらう」とか、「企業の文化化」「学校の文化化」と言った方が良いのではないか。

○　文の冒頭で「美術やアート」と並列したが、単に「アート」とした場合、「美術」を含んだ意味で「アート」という言葉を使うのなら良いが、「アート」ばかりで「美術」を扱わないととられるのは問題だ。

○　「美術」か「アート」かについては難しい問題だ。美術館の名称にも関わる。
○　文言にこだわるより、実際に美術館がどんな活動をするかが重要。要綱については、あとで変更できる柔軟さが必要だ。提言については誰が読んでも分かりやすい文章とすべき。専門用語等についても配慮してもらいたい。
○　他の美術館で「美術・アート」について「美術＜アート＞」と表現するものもあった。
○　専門家でなければ、「美術・アート」でも特に違和感は無いのではないか。
○　英語で言えば、「美術」も「アート」も「Ａｒｔ」だ。ファインアートなのか、アートなのかという問題でしかない。
○　「相模原市全市が美術・芸術創造都市とイメージされるような“場”＝街づくりを積極的に推進する。」との文言について、これは少し飛躍があるのではないのか。
○　市の施策の中で「彩りのある市民文化を創造」「豊かな市民文化の創造」というものがあった。この文化を美術に置き換えたものだ。
○　「美術・デザインを含むアート」とするのが最も的確だ。アートが一番広い概念であり、デザインを含めるということも分かる。
○　文言の検討はここまでとして、内容についてどうか。
○　「基本理念」の「相模原市の美術館は、美術やアートを通じ、“人”と“場”と“文化”を育みながら、相模原市の豊かで活力ある未来を創造することを目指します。」の部分を、もう少し短くして広がりを持たせてはどうか。文言を統一する意味では、「目指します」では主語が美術館なので、委員会が提言する提言書としては「美術館はこうあるべき」とした方が良いと思う。
●　「基本理念」について、文章表現は見直すとしても、内容はこのままで良いと思う。
○　文体については、再度全体を見て統一したい。
○　印象としてだが、全体のイメージに「人を育むこと」をプラスできないだろうか。癒しのためであるとか、福祉のためであるというのはあくまで副産的なことだ。元気な人が成長する美術館であるべきだ。
○　伸びるべきところを自由に伸ばせる美術館であるようなイメージを与えるべき。
○　受動的でなく、美術館から外に飛び出していくようなイメージをもう少し強く打ち出してはどうか。
●　「基本理念」ではなく、「機能」の項に盛り込めるかも知れない。

《「機能」について》
●　機能については、１～４番に従来の美術館機能を記述し、「５．地域活性機能」を世の中に出て行く部分、「６．交流機能」を全体の包括をする部分として構成した。

○　「基本理念」の「３．相模原の市民文化を育む美術館」の中には、「美術館には教育普及部門を強化し、･･･」とある。教育普及が「基本理念」で触れられているのに、「機能」であまり触れられていないのはおかしい。美術館は 開館前からプレイベントなどを通じて教育を始めるべきだ。宗教や民族間の紛争などについても、アートが相互理解にどれだけ役立つか、一般の人に理解してもらう必要がある。

○　「一定の大きさのある立体作品については野外展示を基本に収集・管理する。」とあるが、彫刻についてだけこういう記述があるのは違和感がある。

●　「機能」については書き込みが不足していると認識している。

○　「機能」について、基礎データ等も含めて、もっと具体的に記述すべきだ。「機能」の１～４番は博物館法に書いてあることがそのまま記述されている印象。せっかくの基本理念が生かされていない。

○　私はこの「機能」部分は、箇条書きに近いので、分かりやすいと感じた。「はじめに」から「基本理念」までが文章形式だったので、重たい印象がある。「機能」も、もう少し詳細に記述する必要はあるかも知れないが、これはこれで良いのではないか。

○　形式的にはこれで良い。この中に「基本理念」と連動していく部分があれば良い。

○　「機能」は文章化しないで、そのまま全て箇条書きにし、基本理念の「人を育む」、「場を育む」、「文化を育む」とリンクさせた方が良い。具体的に実現できるかは未知数だが、提言書に書き込むのは「こんなことが実現できれば良い」という提言であるので、もっと書き込んでも良いと思う。

○　検討委員会の中で機能に関する発言がもっとあったはずだ。

○　「学習支援・創作支援」についても、「上から目線」でない美術館にして欲しい。

○　「基本理念」が良くできているのだから、「機能」についても何ができるのか盛り込んで欲しい。

○　提言書を読むときは、「機能」の項に目がいくと思う。ここを読むと、美術館に何ができるのか分かる。

●　日本のみならず、世界のアートシーンに対して、どんな活動が可能かであるとか、語れることがあると思う。

○　市と意見交換をした際に、学生の単位互換制度などを提案したが、提言書であるので、やりたいこと、できる可能性のあることを記述してもよいのではないか。

○　世田谷美術館では既に大学との単位互換制度を行っている。相模原市の美術館でも可能だと思う。

●　３美大との連携などについても、アピールしてよいと思う。

○　「学習支援・創作支援」の項目についても具体的な記述がほしい。

○　美術館の基本機能の説明に終わっている。夢がわかない。

○　美術館の機能について説明をしながら、「基本理念」と連携をする記述はできない

か。
○　箇条書きでよいから追加すべきだ。

《「組織体制」について》
●　「（仮称）ミュージアム・フェロー」が、従来の一般的な美術館組織に追加した部分だ。その他の組織体制については、従来の美術館と大きく変わらない。
○　当初は、「美大生との連携」とされていたものだが、美大生だけでないので、ミュージアム・フェローと変更したものだ。
○　「組織体制」と「組織の編成にあたって」が分かれて記述されているが、この２つは一本化することも考えられる。また、「組織体制」の中で、「機能」に関連するところもある。
○　「組織の編成にあたって」の「２．組織のあり方について」は必要ないかもしれない。
○　「組織の編成にあたって」は「組織体制」の冒頭に入れてまとめた方が良いと思う。
○　館長について、「確固たる哲学を有し、」とあるが、何に対する哲学か分からない。「美術館運営の理念と哲学」としてはどうか。
○　美術館が設置された後に美術館の運営資金が不足し、美術館運営が難しくなる傾向にある。美術館運営について、資金をどうするのかをどこかに記述するべきではないか。美術館運営のための基金（ファンド）の設立等についても記述すべきだ。また、市の直営なのか、財団運営にすべきなのかについても記述したほうが良いと思う。
○　資金などについて、重要な事柄ではあるが、提言書に盛り込むべきかどうかについては、今日まで触れていない。
○　第１回の検討委員会で、市の方から、予算等についても検討できればという趣旨の発言があったと記憶している。
○　指定管理制度なども検討できるのではないか。
○　美術館の運営形態について、検討は必要であり、横須賀美術館設立の際にも重ねて検討した。しかし、美術館の基本コンセプトの段階ではなく、美術館設置のための検討段階において検討したものだ。
●　今回の検討委員会では、経営については検討してこなかった。美術館の設置・運営のためには、基金（ファンド）の設立も必要であろうし、今後の美術館設置のための検討において、検討したい。
○　美術館のコンセプトとして「理想的な美術館とは何か」を中心に検討してきたため、美術館の規模や資金的な面については検討してこなかった。
○　運営資金について、美術館の規模や事業内容等に合わせて、財政的なシミュレー

ションが必要だ。次の「美術館設置のための検討組織」において詳細に検討すべきだ。

○ 次の「美術館設置のため検討組織」で検討が必要となる項目を、提言書の中に挙げておいても良いかと思う。

○ 美術館の設置・運営のためには、基金（ファンド）の設置は必要だ。

○ 職員について、「専門的な知識・経験をもった職員（学芸員など）を十分に確保すること」とあるが、指定管理者制度ではなく、すでに市の直営を想定しているものではないのか。

○ 「学芸員」を置くということは、博物館類似施設や相当施設ではなく、登録博物館を目指しているということか。

● 相模原市の美術館が登録博物館になるとは決まっていない。どんな性格の美術館なのかにより、登録博物館か、博物館相当施設となるのかが決まる。

○ 「２．協働支援組織」について、簡単に記述されているが、実際に美術館を運営するにあたっては、これらの組織でどんなことができるかについても、踏み込んで検討すべきだ。次回の美術館設置のための検討段階で検討すべきか。

○ 協同支援に関連して、メンバーシップ制度についても検討が必要だ。個人・企業の会員を募って、協賛金の額などにより、会員に特典を与える制度だ。

○ ＭＯＭＡでは、企業会員になると美術館でパーティが開催できるなどの特典がある。

○ 近代美術館で企業会員から協賛金を集める制度を始めたが、企業から協賛金を集めるということは、会員企業に対するサービスを充実させる等、それ相応の努力が必要である。

○ オープニングセレモニーに招待されるなどの特典は、企業にとっても名誉なことである。事務的には困難を伴うが、導入を検討すべきだ。

○ メンバーシップ制度は、単なる「友の会」ではない。市民や企業にとって社会貢献となるものだ。

○ メンバーになると、美術館事業への参加意識が高くなり、アンケートの反応も良い。

○ 提言書の文言について、全体的なまとめ直しが必要だ。

● 年明けに再度、案をまとめ直し、送付したい。

○ 各委員から、提言書に対する改善案を多くいただかないと書きにくい。

○ 市を動かすような提言をする必要がある。

○ 美術大学だけではなく、多くの市民に向けて、それぞれの持ち味を生かした美術館運営をするという視点が必要だ。

○ 「（仮称）ミュージアム・フェロー」について美大生に期待しすぎではないか。学生にもメリットが無ければ、学生が参加してくるかは分からない。単位認定制

度などと連携させる必要がある。

● 美大生の意識調査をしたことがあるが、美大生は絵画の鑑賞をするための美術館には興味は無い。美大生は、自分が参加できる美術館であれば行く。レストランやミュージアムショップも、学生食堂や画材店のようなものであれば行くとの回答が多かった。

○ 美大生が美術館に行かないというのは本当だ。美大の付属美術館にもなかなか行かない。

○ 世田谷美術館では、単位認定制度で美術館活動に参加して、継続して参加する人が毎年４～５人はいる。きっかけさえあれば、美術館に来るようになると思う。

○ 学生に自発的な参加を期待するのは無理がある。単位認定は美術館活動に参加する見返りではなく、学生が美術館活動に参加しやすい環境の醸成だ。学生が学業に関係なく美術館活動に参加していると、学業がおろそかになっているという印象を与える。美術館活動と学業を結び付けることで、学生も参加しやすくなる。学校は学生にボランティア活動も推奨している。こういった活動を組織化していけば、活動がより活発に行える。

○ 美術館ができれば、市内の芸術家たちが行っている教育普及活動なども組織化できると思う。ワークショップなどの活動についても、美術館が教育活動のコア施設となるべき。

○ 美術館準備室ができたらすぐに、ワークショップなどの活動を開始し、学生が参加できる枠組みの実現が可能かについて、実証していく必要がある。

○ 学生は何も考えていないわけではない。しかし、美術館が学生をしっかりリードしていかなければ、何も起こらない。美術館が、学生に良好な活動環境を提供する姿勢が必要だ。

○ 大学の授業を、美術館で行うだけでも、学校の授業とは違う効果が生まれる。

○ 美大と付属美術館における事業連携はどのような状態か。

○ 学生は、授業であれば美術館に足を運ぶが、展示だけでは美術館に行こうとしない。だからこそ美術館の側から学生に働きかけをしていかなければならない。

○ 美術館と美術大学にはそれぞれの役割があり、美術大学の展示は美術館ではできない。美術館で行う展示は美術館の事業であり、美術大学が継続的に美術館の展示室を使うわけにはいかない。

○ 学校が美術館の事業にどう関わって行けるのかは、明確ではないが、様々な可能性が期待できる。

○ 市内公立全小・中学校等で行う「さがみ風っ子展」に女子美大の協力をいただき、３日間の会期で約２万人の来場者がある。学校の美術教員には熱意があり、社会教育事業に参加したいと考えている。美術教員の力を活用して欲しい。

○ 専門職についても、キュレーターの他、教育専門のエデュケーターなどを設けて

いく必要があるかも知れない。

○　従来の学芸員だけでなく、企画を行うプランナーや、教育を行うエデュケーターの役割が今後は必要不可欠だ。

○　学芸員は資質が重要だ。

○　新卒者の採用は成績が良いだけではだめ。人を見る必要がある。

○　「美術館の組織」について、学芸員の資質を特記すべきだ。

《全体に対して》

○　提言書(案)の全体を見て何か意見はあるか。

○　美術館検討委員会の会議録は、公開されているか。

●　過去の会議録は全て公開されている。

○　市内に美術館活動を行っている施設は。

●　主なものは、相模原市民ギャラリー、藤野芸術の家、女子美美術館、光と緑の美術館等がある。

○　相模原市立博物館と宇宙科学研究所の連携のように、美術館でも地域活動が活性化していけば良い。

○　メンバーシップや友の会制度などについても、特色のある活動が行えるような制度が望ましい。

○　メセナ（企業による文化芸術支援）的な活動も視野に入れるべきだ。

○　美術館運営は市の直営が望ましいが、市の直営であっても館長が数年で異動してしまうのは、継続的な事業を行う面で損失だ。

○　指定管理者制度についても様々な形態がある。経営管理的な人材も重要。日本の美術館は学芸は重視するが、経営的な面で弱い。

○　美術館の運営には、アートマネージメントが重要だ。

○　大学に「アートマネージメント」という講座や学科があるが、美術館にもそういった立場の人は必要だ。

○　学芸員が安心して仕事ができるように、マネージャーという役割がある。

○　映画製作で言えば、監督は資金を使う側で、プロデューサーが資金を集めてくる役割だ。美術館にも運営資金を集める人が必要だ。

○　ちなみに、美大を「関東５美大」とまとめて呼ぶのは良くない。関東５美大には、藝大が入っていないし、美大以外の美術系の学校もある。

３　その他

第７回検討委員会について日程調整を行い、３月５日（木）１４：００から相模市民ギャラリー会議室にておこなうこととなった。

美術館検討委員会委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	生　嶋　な　ぎ	公募委員		出席
2	石　野　克　彦	公募委員		出席
3	稲　木　吉　一	女子美術大学	教　授	出席
4	上　條　陽　子	市民の美術館を考える会	代　表	出席
5	清　水　哲　朗	東京造形大学	教　授	出席
6	陶　山　定　人	相模原芸術家協会	会　長	出席
7	高　橋　直　裕	世田谷美術館	学芸員	出席
8	原　田　　光	元横須賀美術館副館長		出席
9	古　田　　亮	東京藝術大学	准教授	出席
10	松　本　美代子	市立緑ヶ丘中学校	校　長	出席
11	森　脇　裕　之	多摩美術大学	准教授	出席